個に応じた自立活動の指導
～明確な評価方法の探究～

中学部まとめ

1. 自立活動の評価についての話し合いや文献研究

研究をはじめるにあたって学部研の話し合いの中で出た意見

・障害が重くなればなるほど、体調や環境によって、できたりできなかったりすることが多く、何をもってできたとするのか、判断が難しい。

・評価が教員の主観になってしまい、評価する教員によってできた、できないの判断が違ってしまうこともあるように感じる。

・クラス外の教員が指導に入っている場合も多いが、全員で目標の共通確認がしっかりできているかが微妙だと感じる。

・内容を設定する時点で、目標と評価項目がしっかり一致できるように考えていく必要がある。

・評価の研究は難しい。いろいろ調べてみても、他校や他県でも苦労しているようだ。

検討された評価方法（各グループからの提案）

①②グループ（準ずる・知的代替）

☆青森県や長野県の取り組みのように、具体的な目標設定が大切。具体的に評価ができる。
☆目標については実態把握をしながら適宜見直し、変更していけばよい。
☆実態把握については、滋賀県の取り組みのように、児童生徒の得意なことや強みに注目し、いいところを伸ばすような目標も具体的に設定できるとよい。
☆評価については青森県の取り組みのように、定型文にあてはめて評価する形で統一できるとよい。評価する方もされる方も具体的でわかりやすい。実態によって評価を一律で行うことは難しい部分もある。
☆ICFの考え方を取り入れて評価できるとよい。
☆昨年度の研究の取り組みで、自立活動６区分２７項目に関連付けて具体的な目標設定をした。それを活かせるとよい。
☆目標について具体的に設定されているのか、見直す必要がある。
☆10回やって7回できたら“できた”と評価することもよいのではないか。
☆客観的な評価をするためにも、複数の教師で評価する。

・具体的な目標設定をすることで、具体的に評価ができる。
「〇〇することによって△△できる」のように、目標を見直し具体的に設定する。
・評価は目標と同様に、具体的に評価する。

検討された評価方法（各グループからの提案）

③グループ（自立活動主体）

☆自立主体の生徒の評価は難しい。
☆どうしても主観的になってしまう。いかに客観的に評価できるかが大切

ルーブリックを用いた評価

課題についての達成レベルを観点と尺度からなるマトリックス表で評価したもの。課題について達成目的（できるようになってもらいたいこと）を設定、その達成のレベルを段階的に分けた表で示す。

☆先生方が見つけてきた、他校の研究資料や文献に共通して「ルーブリック」の活用がうたわれていたことから、有効な評価方法であることがわかるから良いのではないか。

☆「ルーブリック」を参考にしながら、本校なりにアレンジしていくやり方がよいのではないか。

検討された評価方法（各グループからの提案）

④グループ（自立活動主体・知的代替）

☆目標設定、評価基準も大切であるということも踏まえながら・・・

<u>滋賀県総合教育センターの自立活動のアセスメントシート、プロセスシートの活用</u>

・アセスメントシート

→数人で取り組み課題関連図のようなものを作成。

・プロセスシート

→目標に対する評価、指導に対する評価も行う。8つの観点で振り返る。

※この評価方法は、教師の授業評価への比重が高いように感じる。

検討された評価方法（各グループからの提案）

⑤グループ（自立活動主体）

☆障害が重くなるほど、できたかできなかったかの判断が難しく、体調や環境にも左右されやすい。
☆内容設定の時点で、目標と評価項目がしっかり一致できるようにしていくことが大切。

ルーブリックを用いた評価

・評価規準（何を評価するのか）、評価基準（具体的な姿：どの場面で、何を、どれくらい、どうする）を設定。

・成功の度合いを示す数レベル程度の尺度（3～5程度が良いか？）と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した評価指標。

＋αで、実態や必要に応じて・・・

・学習過程の評価を行う。→進歩の評価

・自己評価、相互評価を行う。

☆ベースの評価はルーブリックで実施し、実態に応じて＋αの評価を取り入れることで、実態の幅が広くても全体で取り組めるのではないか。

学部研で提案されたもの以外に、グループ内での検討の際に中学部の先生方があげてくださった評価方法

青森県総合教育センター

長野県総合教育センター

山口県教育委員会

障害の重い子どもの授業づくりPart4

広島県立福山特別支援学校

視線入力　視線観察シート、個人シート、分析ツール等

常葉大学の研究

Sスケールの活用

甲府支援学校の取り組み

学部としての検討～評価方法を選定するにあたって

・目標＝評価項目になるようにしっかりと設定することが大切。

・目標をしっかり立て、従来のやり方でやっていくのが一番良いのでは・・・。

・特に重度の子は、記述式ではない段階別の評価では、細かい変化が分からず、ずっと変化がないままという恐れがある。

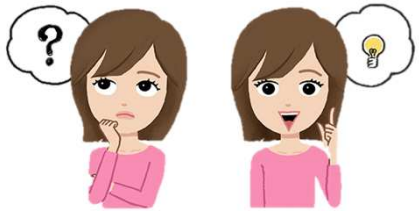
・重度でも、評価できない、難しいということは、目標自体が合っていないのではないか？

・ルーブリックは客観性はあるが、それだけでは難しい。学習過程もわかるように記述があると良い。

・重度の子は特に、記述式の評価もないと、細かい変化の評価ができないのでは。

・重度の子は、できたりできなかったりのゆらぎの部分もわかるものが良い。

・重度の子は特に客観性が欲しい。



学部としての検討～評価方法を選定するにあたって

・実態差が大きいので全校で一つの評価方法では、うまくいかないのでは。

・教育課程ごと、学部ごとに実態や年齢層も違うので、学校として一つの評価方法にするより、教育課程ごとに評価方法を分けて取り組むのが良いのでは。

でも・・・

・理想としては、教育課程ごとや学部ごとに合った評価方法を検討して実践していけると良い。ただ、そうするとそれぞれの評価方法の書式を考えることにも、検証にも時間がかかり、1年の研究ではまとめられないと思う・・・。

・一つの評価方法に絞るのであれば、重度の児童生徒でも評価しやすい方法を考え、それが単一や知的代替の生徒の評価も対応できるかを検討していった方が良いのでは。

学部としての検討結果

ルーブリックによる学習評価

ルーブリックとは・・・

☆課題についての達成レベルを観点と尺度からなるマトリックス表で評価したもの。
課題について達成目的（できるようになってもらいたいこと）を設定し，その達成のレベルを段階的に分けた表で示す。

（福山特別支援学校　自立活動ガイドブックII版より）

☆評価規準、評価基準を設定。成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を記した評価指標。

（自立活動ハンドブック３より）

評価規準・・・何を評価するのか
評価基準・・・具体的な姿（どの場面で、何を、どれくらい、どうする）であり具体的な判断の根拠）

中学部が　提案する方法

全部の目標に対して作成すると膨大な量になりまとめにくい。
研究として取り組むのであれば、一番大切にしたい目標について
この方法を実施してみたらどうか。

目標（評価規準）	評価基準	
座位保持いすに座って頭を上げ、安定した姿勢を保持することができる。	A	10分間頭を上げて、安定した姿勢を保つことができる。
	B	5分間頭を上げて、安定した姿勢を保つことができる。
	C（現状）	5分間頭を上げ続けることは難しいが、頭を上げたり動かしたりして姿勢を保持しようとすることができる。
	D	頭を動かすことはできるが、上げられず倒れてしまい安定した姿勢を保持できない。
	E	頭を動かすことも上げることもできず安定した姿勢を保持できない。
	所見	

A：十分満足できる　B：概ね満足できる　C：現状　D：現状より悪化　E：全く取り組むことができない

中学部　検討結果のまとめ

・ベースの評価はルーブリックで実施。

・備考として記述式の評価も加え、実態に応じて、学習過程の評価に重点を置いたり、可能な児童生徒は自己評価や相互評価を取り入れたりすることで、実態の幅が広くても学校全体で取り組めるのではないか。

・実態の幅が広いので、合う場合と難しい場合があるかもしれないが、事例に取り組んでいく中で、さらによいアイデアが出てくるとよい。

2. 自立活動の評価についての事例研究

①②グループ（準ずる・知的代替）

★バイタルチェックの際の気持ち切り替え

・時間帯(表①)や関わる人(表②、③)ごとの評価
・基準の明確化のために ➡ 評価基準Cの追加の変更

★まとめと今後の課題

・取り組みの後半で評価が高まっていった。
・体調、精神状態が安定 ➡ 午後の時間帯
・時間帯での評価の難しさ ➡ 安定していても受け入れない態度とることもある
・課題克服には有効 ➡ 感情面の評価の難しさ
・さまざまな要素が含まれる(時間帯、声掛け、雰囲気など)
➡ 統一した基準での評価の難しさ

③グループ（自立活動主体）

★「感情の表出」→　発声に重きをおく

〇方法

・評価基準A～Eを点数化
・時間や評価者はランダム
・天候や体調なども記録

→

〇結果

・Cの評価設定が適切であった(平均値)
・発作の影響が見られた
・活動や人とのかかわりに制限(感染対策)

★まとめと今後の課題

・自立活動主体の生徒→ 評価の客観性をもたせる難しさ
・実態の共通理解、情報の共有、同じ意識をもってかかわることができた
・健康面への配慮が大切
・グループ全体で評価規準 (基準)を検討、検証できた
→ ルーブリックでの評価有益

④グループ（自立活動主体・知的代替）

★「優しく操作」しやすくなる支援方法

- 初めての教材には、慎重になり、優しく触れる。
- 肘を支えると優しく操作できる。
- 床やクッションチェアーに座ると落ち着きやすい。
- さらにパーテーションで囲うことで、教材に視線を向けたり、落ち着いたりしやすい。
- 丸くなっている時は、くすぐり遊びなどで気持ちをほぐすとよい。

★まとめと今後の課題

・情緒を安定させることで、気持ちを向かせる ⇒ 落ち着いて「優しく操作」

・本生徒の好みを教材に取り入れていく ⇒ 有効であることが確認

・目標(評価規準)設定の精選、検討

・変化する実態にグループで話し合い柔軟に対応していく

・そのためのツールのひとつとしてルーブリックを活用できた

⑤グループ（自立活動主体）

★姿勢変換　→　側弯進行予防と呼吸状態の安定

・覚醒レベルの低下(年度途中) ➡ 反応の減少、変形の進行、呼吸の悪化

⬇

評価規準の見直し(追加や変更)→「姿勢変換」

★まとめと今後の課題

・判断(指導方法、反応のくみ取り方)の難しさ ➡ ・考え方のすり合わせ
・同じ視点でのかかわり

・5段階評価 ➡ 微細な変化を客観的にとらえ確認できる(記述補足も)
・ポイント絞った評価規準(1つ)が有効
・意識の高まり ➡ 客観的な評価項目の設定、複数の視点での評価

中学部のまとめ

〇目標設定

・評価規準(基準含む)の精選、検討が大切
・一定の評価規準(基準)の難しさ　→　実態の様々な要素、健康状態の変化

〇すり合わせ

・複数の眼　→　生徒の実態の共通理解、情報の共有、同じ意識、変化への柔軟な対応

ルーブリックでの評価について

良かった点

・グループ全体で評価規準 (基準)を検討、検証できた
・障害が重度の生徒→5段階評価や記述が有効であった
・変化する実態にグループで話し合い柔軟に対応していく→そのためのツールのひとつとしてルーブリック活用
・評価に対する意識の高まりを感じられた
・本人の課題克服に有効であった

課題点

・感情面の評価の難しさを感じた
・長期間の取り組みになるとまた、様々な関連性が見えてくるかもしれない　→　今後の生かし方